

食品リサイクルとマスコミの役割

八月二十九日、食品リサイクルサロン第八回「四谷カフェ」が「食品リサイクルの進展に向けたマスコミの役割を考える」その難しさと乗り越え方」をテーマに主婦連合会会議室で開催されました。

報道を通じて消費者に関心を

食品リサイクルを含め を伺いました。

廃棄物関連紙を刊行して 最初に食品リサイクル いる日報ビジネス(株)環境 法成立以前の生ごみリサ 編集部課長の新倉充さん イクル処理の経過について、国・自治体の試み、

二〇〇〇年に食品関連 事業者を対象に食品リサ

イクル法が成立、食品廃

棄物の発生抑制・再生利

用・減量(再生利用等)

の促進と外部委託による

食品リサイクル促進に関

することが制定されまし

たが、業界の多くは再生

利用等実施率の目標数値

(一律二〇%)を達成済

であり、大きな対策は講

じられず様子見でした。

施行後五年間は、登録

再生利用事業者数の増加

とともに食品リサイクル

の主流はリサイクル業者

へとつなげるには、

●食品ロス削減や生ごみ

の水切りによる減量を食

品リサイクルの枠組みで

行なうことへの自治体の

積極的な参加と推進

●食品ロスに対する「も

ったいない」という意識

や食品リサイクル・ルー

プ製品への消費者の関心

を高める

●食品関連事業者へのイ

ンセンティブ

の三つのポイントを提

言。それにはマスコミの

報道を通して、消費者が

関心を持ち、結果的に国

民一人ひとりが考え方や

行動を変えて、社会全体

の運動として広がってい

くことが重要と強調され

ました。

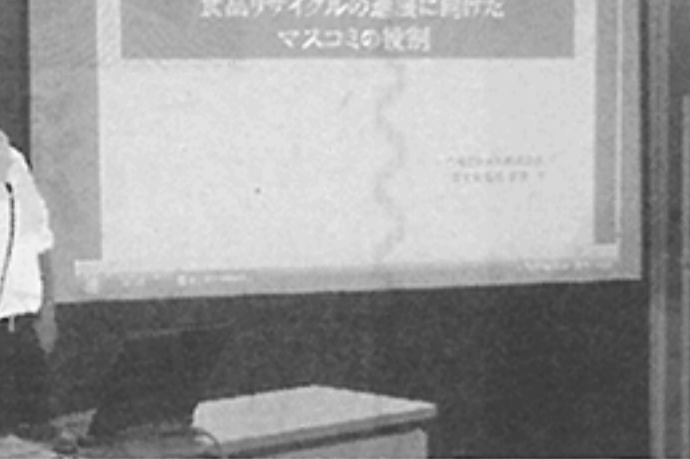
最後に参加者からの質

疑応答では、家庭用生ご

みの食品リサイクル対象

への是非、従来の賞味期

限の緩和策、若者の食習 見交換がなされ、私たち いくつかの必要性を実感 慣についてなど活発な意 の身近な取組みを広げて しました。



食品リサイクルの進展に向けた マスコミの役割